She's Flowers

栃木県農政部 経営技術課／栃木県農業者懇談会
制作協力：栃木県女性農業士会（社会参画部会）

栃木県農政部 経営技術課
〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
TEL：028-623-2317　FAX：028-623-2315

栃木県農業者懇談会（とちぎアグリプラザ内）
〒320-0047 栃木県宇都宮市一の沢 2-2-13
TEL：028-647-2622　FAX：028-647-2629

とちぎの輝く“女性農業士”活躍事例集

次世代につなぐチャレンジ

She's Flowers

栃木県農政部 経営技術課／栃木県農業者懇談会
制作協力：栃木県女性農業士会（社会参画部会）

はじめに

農業を職業として選択し、新たなチャレンジに取り組んで、生き生きと活躍している女性農業者の姿を多くの方々に知っていただきたいと思い、この冊子を作成しました。

県では、主体的に農業経営に参画し、農村社会における男女共同参画や農村地域の活性化等を行っていく女性農業者を「女性農業士」として認定しています。女性農業士の中には、6次産業化に挑戦されている方、スマート農業に挑戦されている方、農泊に挑戦されている方、農福連携に挑戦されている方、そして農業委員やJA理事として地域に貢献されている方など、挑戦の形は様々ですが、どの方も自分のアイディアを最大限に発揮し、キラキラと輝いている方ばかりです。

この冊子を読んでくださった皆様に、ここで紹介した方々の農業に対する前向きな姿勢や想いなどを知っていただき、農業の魅力や可能性を感じていただけたら幸いです。

✦女性農業士とは

【女性農業士認定制度】

主体的に農業経営に参画し、農村社会における男女共同参画や農村地域の活性化等を行っていく女性農業者を認定

【女性農業士会の概要】

発足年度	平成14年3月～
会 員 数	88名（令和6年2月時点）
スローガン	みんなが主役で素敵な未来
活動内容	各種研修会の開催 専門部会活動（経営参画、家族経営協定、女性起業、社会参画、食と農理解促進）

「とちぎオープンファーム動画」

女性農業士会では、新規就農を目指している方や、農業ってどんな仕事？と疑問に思っている方に向けて「とちぎオープンファーム」として農場の公開を行っています。こちらのYouTubeチャンネルで動画をご覧いただけます。

とちぎの輝く“女性農業士”活躍事例集

次世代につなぐチャレンジ

interview part 1

農業経営に参画しよう

活躍する4人の女性農業者に、
就労のきっかけやチャレンジしてきたこと、
農業にやりがいを感じる瞬間などを伺いました。

1 6次産業化による多角化経営でいちごの魅力発信 …… 篠原 和香子さん

2 スマート農業の導入で地域農業に貢献 …… 大木 伸子さん

3 農業を経営的視点で発展させる …… 石下 尚美さん

4 歴史ある蔵を生かした農家民宿と交流の場づくり …… 西岡 智子さん

6次産業化による多角化経営でいちごの魅力発信

1/4 interview

「いちごはものすごいポテンシャルを持った武器だ」

篠原 和香子さん

いちご農家にしか できないことをやりたい

50年ほど前から続くいちごの専業農家。夫が2代目で2013年に法人化しました。現在は息子が社長を継いで、とちおとめ、とちあいかの2品種を53a栽培しています。6次産業化を考えるきっかけは、「規格外のいちごを生かしたい」「完熟したいちごの美味しさを伝えたい」の2点でした。パティシェの資格を取った娘の夢を叶える意味もあり、2017年6月に旧国道4号沿いに洋菓子店「シェフレ」をオープンしました。

このとき、国の六次産業化・地産地消法に基づく「総合化事業計画」を申請し、認定されましたが、加工所等を整備する「6次産業化交付金施設整備事業」は採択されず、土地の取得費用から開業にかかる費用までを自己資金でまかない、苦しいスタートでした。その壁をなんとかクリアすると…。オープンと同時にお客さまが殺到し、店に設けた20席のイートインスペースも埋まり、仕込みが間に合わず、3日後に臨時休業する羽目に。文字通り嬉しい悲鳴を上げることになりました。

洋菓子店は夏場の売り上げが落ちる傾向にあるので、「シェフレ」では他と違うことをやろうと考えて、イタリア製のジェラートマシーンを約1,000万円で導入し、いちごと県産の生乳を使い、なめらかでくちどけのいいジェラートを作ることに成功。いちごの味と香りが生きた目玉商品になりました。東京のカフェやレストランにも利用いただいています。

▲新メニューの開発にも力を入れている

▲設備への投資も積極的に行っている

▲働きやすく整備された、パック詰めの作業所

いちごの魅力を 最大限に発信する店舗

2020年11月、いちごの専門店「いちご日和り」を小山市にオープンしました。圃場に隣接しているため、シーズンには朝採れのいちごを直売するほか、通年でいちごのケーキやジェラート、スムージーなどのスイーツを提供しています。

いちごの収穫が終わる夏場には、桃やパイナップル、メロンを使った商品も販売しています。例えば丸ごと桃が乗った桃パフェは土日で一日50個売れるほどの人気商品になっています。

お金をかけた宣伝は一切していませんが、口コミやスタッフが楽しみながらSNSへ投稿し、全国からお客さまが集まります。

スタッフのやる気を引き出し 楽しく働ける職場を作る

現在は、いちご栽培部門、加工部門、カフェ運営部門のスタッフを20人雇用。各部門には正社員を配置しています。私の役目は、それぞれの部門で個々の能力を引き出し、誰もが笑顔でやりがいを持って働ける職場環境を作ること。農業経営者として新たな知識や経営スキルを学ぶため、女性農業士の勉強会などにも積極的に参加しています。

これからやりたいことは、キッチンカーによる移動販売です。これまでイベント出店のお誘いをいただくたびに、スタッフが荷物の積み下ろしに苦労していました。専用のキッチンカーがあれば、作業が軽減できます。それから農家レストランにもチャレンジしてみたい。まだまだやりたいことがたくさんあります。現状に満足することなく、常に先を考えて一歩を踏み出す勇気が大切だと思っています。

▲念願だったいちごの専門店「いちご日和り」

▲これからの夢を笑顔いっぱいで語ってくださいました

スマート農業の導入で地域農業に貢献

2/4 interview

「ロボット技術やICTを活用し、家族３人で農業を楽しむ」

大木 伸子さん

機械いじりが好き、という強みを生かす

現在は米と麦、合わせて35ha作付けしています。でも、自分が農業に携わるなんて、17年前にはまったく想像もしていませんでした。きっかけは夫が、コンバインやトラクターなどの修理を得意としていたことです。廃棄するような農機具を整備していたら、それを使ってうちの畑を耕して欲しい、田植えをやってくれないか、稲刈りをお願いしたい、という話がきて、周りの田んぼや畑の作業を請け負うようになりました。そのうちに育て方を教えるから全部任せたい、という依頼が増えて、現在50～60軒に。この農家さんとの交渉や契約手続きなどが、私の担当になっています。

スタートは夫婦２人でしたが、３年ほど前に娘が就農し、家族３人で切り盛りしています。私は毎朝２時間ほどかけて圃場を見回り、水回りや雑草の有無などをチェック。夫と娘に作業指示を出したり、会計や書類を作成したりと、おもに経営管理を行っています。現場には夫と娘が出て、さらに夫は機械の操作やメンテナンス、メーカーの実演会などにも積極的に参加しています。

最新のロボット技術やICTを活用して作業負担を減らす

〈ロボット田植機〉

今年からロボット田植機を導入しました。不整形な田んぼでも外周を１周すると自動で軌跡を考えて、きれいに植えていく姿は、まさに熟練の技。農業機械は操縦にコツがいるため、これまでは夫に任せていました。重労働で体力の消耗が激しく、扱い方を間違えると大きな事故に繋がるので、神経も使います。それがロボットなら苗をセットして娘が操作すれば、AIが最適解を選んで田んぼを回ってくれます。その間に夫は代掻きなどほかの作業を行います。ロボット田植え機を導入したことで、効率的かつ正確に田植え作業ができるようになりました。

〈営農支援システム〉

また、営農支援システムも取り入れています。１年間の作業日誌を入力してデータを蓄積していくと、作業内容や作物の生育状況が数値化され、分析できるシステムです。圃場ごとの品質や収量もデータ化できるので、作業の効率化や可視化が可能になりました。現在データを入力している段階で、これを活用し、どのタイミングで何をすれば、多収・高品質生産できるか、どこに問題があるのかを研究中です。また、夫と娘がどこの圃場でどんな作業をしているか、スマートフォンなどで共有できるのも便利な機能です。

〈農業用ドローン〉

ドローンを導入したのは５年ほど前。おもに娘が操作しています。これまで防除作業は産業用無人ヘリコプターか動力噴霧器しかなく、これが大変な作業でした。手動で散布していた際には１haの農地で１時間かけていましたが、ドローンの場合は５～10分で完了。さらに、必要な箇所に過不足なく農薬を散布できるようになりました。作業の自動化を図ることによって、現場での過酷な作業が減り、農作業の効率化につながっています。

家族３人で地域のための一歩先に行く農業を

自在にドローンを飛ばしていたら、他の農家さんから頼まれることも多くなりました。来年には追肥作業もできるようになるので、さらに活用の幅が広がりそうです。

涼しい木陰や車のなか、あるいは事務所内でモニターを見ながら操作するだけで、ロボットが動く。IT化が進みロボットの力を借りれば、女性でも楽に農作業ができるようになります。

少子高齢化により農業人口が減少している中で、地域農業を維持発展させていくためには、重労働を軽減して農作業を効率化させる「スマート農業」もひとつの姿になり得るのではないかと思っています。

▲ご主人。得意な機械修理が大きな強みとなった

▲ロボット田植え機によって作業の効率化を実現

▲農業用ドローンが自在に扱えることは他の農家からも頼りにされている

▲共に農業経営に関わる娘さんもトラクターを使いこなす

▲地域のための一歩先に行く農業を、家族と連携して実現していきたい

農業を経営的視点で発展させる

3/4 interview

「農福連携を取り入れながら、生き生きと働ける環境をつくる」

石下 尚美さん

農家に経営感覚を取り入れる

ごく普通のサラリーマン家庭に育った私には、100年以上も続く農家に入ることは、想像以上に大変なことでした。仕事をしても給料をもらえず、家事や子育てはワンオペ…。そんな農家の暮らしに馴染めませんでした。

そこで、私は前から興味のあった店を始めることに。友人の飲食店を休日に借りてスポット飲食店をやった経験もあり、道の駅に空き店舗が出たことをきっかけに、2012年から総菜店の経営に挑戦し、収穫した農産物を原料とした6次産業化に取り組みました。その後、家業の農業を変えてみようと本格的に生産部門にも携わることを決意。「1年間で売り上げを100万円アップさせる！」と家族に宣言しました。自分の存在意義を認めてもらうには、実績を出さなければなりません。

手始めに明細書や領収書をファイリングして、お金の流れを把握することから始めました。さらに少しずつ農協以外の販路を開拓。スーパーや飲食店に卸すことで売り上げがアップしました。経理を任され、宣言した目標額も楽々クリアし、その先に駒を進めました。

定期的にミーティングや掃除を実行する

現在は米が約20ha、麦、大豆、そば、デントコーンのほかに、露地野菜30～50a、アスパラガス15a、メロン3.5aの規模を展開する農家です。そして、種苗メーカーで5年間働いていた三男が昨年から就農し、本人の希望で始めたメロンは今年から収穫しています。規模の拡大とともに、正社員1名、パート1名を雇用し計5名を軸に作業を行っています。また農繁期にはパートの方だけでなく、2つの福祉施設から農業支援に来てもらっています。

そこで一緒に働く以上、将来のビジョンや方向性の共有は欠かせないことから、ホワイトボードを利用して作業を明確にするほか、毎朝の申し送りを定例化しました。週一回はミーティング。さらに毎月大掃除の日も決めて環境の美化に努めています。こうした家族の取組もあって、全員の農業経営への意識が少しずつ変わっていきました。

▲息子さんも就農。農業経営のビジョンを語ってくださいました

▲たくさんの人の助けが支えになりました

▲手探りでスタートした福祉施設との連携は、今では必要不可欠なものに

農福連携マッチングを活用することで、圃場をしっかり管理する

3年前は両親と夫が米、麦、そば、私がほぼ1人でアスパラガスと季節野菜を作っており、除草や片づけまで手が回らず、作業に追われる状況になりました。そこで見つけたのが、とちぎセルプセンターを通した、県の「農福連携マッチング」でした。とはいえ、障がい者の方にどんなふうに作業をお願いするのかもわからなかったので、すでに利用されている先輩農家さんを見学しました。

そしてお願いする福祉施設の職員さんに、現場にきてもらい、お互いのことをよく理解したうえで作業委託契約を結びました。作業はこちらが直接、障がい者さんにお願いするのではなく、職員さんに伝えて指導してもらいます。基本的には除草と片づけ作業ですが、実際にやってみたら、負担になってしまうことや、限られた作業時間では難しいことも。職員さんにお任せではなく、実際に障がい者さんが作業している様子を確認しながら、無理のない工程で気持ちよく、長く働いてもらうにはどうしたらいいのか、試行錯誤しています。日程の調整や作業内容など、こちらの希望を押し付けることなく、相手側に寄り添うことが大切だと思います。

農福連携を利用したことで、圃場がいつもきれいで管理しやすくなりました。私たちの作業効率が上がり、新たな目標へと向かう余裕もできました。今では石下農園の農業経営に福祉施設の方の力がなくてはならないものになっています。

歴史ある蔵を生かした農家民宿と交流の場づくり

4/4 interview

「農家民宿を地域の宝に。人と人をつなげ、新たな価値を生み出す」

西岡 智子さん

故郷の田んぼが自分の原点

生まれ育った大田原の田園風景が、子どもの頃から大好きでした。遊園地に出かけていくよりも、田んぼを眺めながら気持ちいい風に吹かれていたい。その想いはずっと変わりません。4人姉妹の長女ということもあり、いずれは農家を継ぐつもりで、東京農大短期大学部に進学しました。

家は江戸時代から続く米農家。私で15代目になります。父から譲り受けた田んぼは約12haで、今は麦や大豆も加えて18.5haに増えました。酒米と直販が2/3、残りを農協に出荷しており、田んぼはほぼ1人で管理しています。

他界した父の後を継ぎ女性が一人で農業を担う

結婚して他県に暮らしていた32歳のとき、父が病に倒れたのをきっかけに、3人の子どもを連れて実家に戻ることに。父の闘病生活は5年間でしたが、父から農業について十分学べたとは言えません。首都圏に勤務していた夫が仕事を辞めて手伝おうか、と提案してくれましたが、亡くなる前に父が言った「女一人でもできっからな」の言葉を信じ、自分でやってみようと決心しました。

とはいえ、大型特殊免許を取得しても、トラクターやコンバインを乗りこなすのは至難の業。慣れない圃場で奮闘している姿を見かねて、父の兄弟や親せき、近所の方々が手伝いに来てくれました。また、わからないことを農協の営農指導員の方に教わったり、繁忙期には那須町の方が助っ人に来てくれたり、周りの方から力を貸していただけたのは、父が地域の方々とのつながりを大切にし、培ってきたご縁のおかげでした。いつも心のなかで「ありがとう、お父さん」と手を合わせています。

歴史ある農家の蔵をリニューアル

数年前から教育旅行の学生さんたちを受け入れています。おもに首都圏の子どもたちで、農家に泊まって農作業を体験するというもの。さらに長男が学ぶ東京農大の友人たちも、たびたびやってくるようになり、父もここをグリーンツーリズムの場にしたいと夢見ていたことを思い出しました。

敷地には古い蔵がいくつもあるのですが、その中に大テーブルに使える立派な1枚板などの建材が何枚も残っていました。そこで蔵の中を片付け、一つは宿泊（5人）と物販に、一つは宿泊（5人）と食堂、もう一つは本格的な調理場を備えた工房兼食堂へリフォーム。もみ殻でご飯を炊く「もみ殻かまど」を近所の方から譲り受け、ここでしか味わえないご飯を用意しています。

農家民宿の名前は『花園創』。花園はここの地名で、一般の方々や外国人旅行客を受け入れ、地元の方たちも巻き込んで一緒に大田原の暮らしを体験してもらいたいとの想いを込めています。現在は、高校を卒業した長女が農泊の取組に意欲的で、一緒に農家民宿を運営しています。ステキな出会いが生まれ、農家の枠を広げながら、人と人のご縁をつなぐ交流の場を提供していきたいと思っています。

豊かに広がる西岡さんの田んぼ

▲歴史ある蔵に宿泊できる、他では味わえない体験

▲共に事業を営んでいる娘さんと

▲たくさんの人の助けを得て、農家を継いだ

▲もみ殻を使って炊くお米は絶品

▲納屋だった建物も素敵な空間に

とちぎの輝く“女性農業士”活躍事例集

次世代につなぐチャレンジ

interview part 2

地域の農業を考えよう

農業委員やＪＡ理事を務める２人の女性農業者に、
自身の農業経営や、地域における農業についての想いなどを
伺いました。

1 地域を第一に、人と人をつなぐ役目を果たしたい …… 本多 幸子さん

2 地域の視点で農業を考え、現場の声を発信 …… 渡辺 和美さん

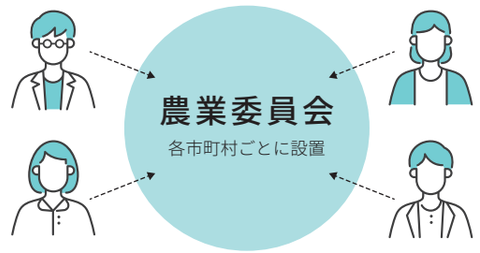
農業委員ってなんだろう？

地域の農地利用を通じて、地域づくりに貢献するのが農業委員会。

農業者の話を親身に聞くコミュニケーション力や共感力などを生かし、女性の農業委員や農地利用最適化推進委員が数多く活躍しています。

「農業委員ってどんなお仕事？」「農業経営と農業委員のお仕事をどのように両立しているのだろう？」「女性農業委員はどんな活動を行っているの？」といった疑問を持ったことはありませんか？

農業者のために親身になって
活動することがやりがいに！



農業委員会とは

地域の農業・農村の発展のため、市町村に設置されている行政委員会のこと。所属する農業委員・農地利用最適化推進委員は、担い手への農地の集積・集約、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進など、農地が適切かつ有効に活用されるために地域に根差した活動を行っています。

農業委員経験者に聞いてみました

実際に委員として活動する（していた）女性農業委員に、農業委員に就任した時の様子などをお聞きしました！

アンケート調査協力：栃木県女性農業士会（社会参画部会）（回答数 61）

会議の雰囲気

- 女性が多かったので、心強かった。活動しやすい。男女差は感じられず、意見は言いやすい雰囲気だった。
- 女性委員で食育を始めたが、男性の協力も得られ、委員会全体で活動ができた。
- 県内すべての市町で複数名の女性が登用されており、男女共同参画も進んできています。

仕事の内容

- 知識がない不安を抱えていたが、先輩委員や事務局のサポートもあった。
- １期目は専門用語や委員の役割、年間の流れなど、覚えるだけで精一杯だった。
- 専門的な知識が求められる農業委員。周りのサポートもありますが、２期目から主体的に活動できるようになる方が多いようです。

意識の変化

- 地域の代表として自覚するようになった。農地法などの知識を身につけ、地域にも役立ちたいと思った。
- 農業委員の立場で見聞きするようになり、以前とは違った考え方をすることができるようになった。

Topic

ＪＡ理事として女性が活躍！

農業者としての視点と女性ならではの視点を活かし、ＪＡ理事としてＪＡ運営に女性の声を反映させる取り組みが広がってきています。男女が共に能力を発揮できる環境をつくるため、女性の力が一層求められています。

【女性の力がＪＡと地域を生き生きと盛り上げる】

- 地域から農業者として認められ、技術指導や農業研修生の受入等に取り組み、地域の農業振興に貢献している。
- 子どもたちの食農教育や農業体験などに力を入れ、地域の活性化に取り組む。
- 地産地消と無添加にこだわった安心・安全なお弁当や惣菜を手作り販売している。

＼ＪＡ理事経験者の声／

ＪＡ運営に参画するのは、分からないことが多く、気後れしがちですが、それは男性も一緒です。総代や役員に就任して勉強していくことで、少しずつ自分の意見を発言できるようになりました。

地域を第一に、人と人をつなぐ役目を果たしたい

1/2 interview

「女性起業家として、農業委員として地域に貢献する」

本多 幸子さん

稲作、畜産、直売所から加工品まで手掛ける

宇都宮下横田町で水稲 2.5ha を作るほかに、黒毛和牛を１０頭肥育している兼業農家です。平日は、ゆうがおパークの加工責任者として仕事に出ており、土日は夫婦で農作業。牛の世話は仕事に出かける前後に。二人の娘は独立し、今まさに、後継者問題に直面しています。

JA 女性会に入り活動し始めた 2003 年、グリーンパーク茂原で、仲間と野菜の直売所を出すことになりました。私は得意な料理の腕を生かしてお菓子を作ろうと、自宅の敷地内に加工所を開設。菓子加工の許可を取得して、赤飯や餅、マフィン、パウンドケーキなどを作り、販売しました。秋には栗や銀杏を入れたおこわも。10 年間でしたが、お客様にはとても喜んでもらえましたし、女性起業の一翼を担った自負もあります。

ゆうがおパークで加工品づくりに携わる

2017 年下野市石橋地区に「ゆうがおパーク」がオープンすることになり、これまでの実績を買われ、店内加工所で加工を担うことに。国道 352 線沿い、姿川のほとりに広大な敷地を持つ施設で、レンタサイクル、ドックランを併設。野菜をはじめとする地場食材や加工品の製造販売、フードコーナーのほか、BBQ コーナーも。地域資源を活かした都市と農村の交流拠点になっています。

オープンの１か月前から試作を重ね、総菜や味噌、漬物、お菓子類など、幅広いラインナップを準備。お客さまはカップルや親子連れが中心。納涼祭りや餃子祭りなど、さまざまなイベントが開かれ、11 月にはかんぴょうを入れた芋汁を提供するなど、地域から親しまれるものを積極的に利用し、２人いる責任者のうちの１人として、やりがいを持って働いています。

▲試作を重ねた加工食品は大好評に

▲広大な敷地が広がる「ゆうがおパーク」

▲後継者問題に直面しつつ黒毛和牛の生産も

▲自宅に設置した加工所ではお菓子の製造も

いろいろな役職を引き受け地域に貢献

2001 年に栃木県女性農業士に認定されてからは、農業委員を３期、宇都宮市農業公社評議員を１期など、様々な役職を経験させていただきました。

現在は、JA うつのみやの理事に就任し、新たな役割を担うことになりました。

これ以外にも、地域の民生委員を引き受けたときは、地域の困っている方を訪問して、お話を伺う貴重な経験もし、これも社会の裏側を垣間見ることができて、とても勉強になりました。現在は、JA 雀宮支所を利用したこども食堂の調理ボランティアに参加。食事を提供するのは毎月２回で、常時 30 人の子どもたちが通ってきます。これまで眠っていた自宅の加工所も、子どもたちのために大活躍です。

「農業委員や JA 理事など方針決定の場となる役職は、オファーされたら引き受ける」が女性農業士のモットー。最初は戸惑うことも多かったですが、困難も仲間と乗り越え、成長できました。今後は若手農業者の育成や消費者との橋渡しなど、地域に貢献していきたいと思っています。

手塩に掛けて育てた牛たち

地域の視点で農業を考え、現場の声を発信

2/2 interview

「地域初の女性JA理事として地域のために活動する」

渡辺　和美さん

塩谷という恵まれた地と仲間とのつながり

日光連山や高原山を背景に、緑の田んぼが広がる、この塩谷町の環境がほんとうに素晴らしい。夫は農家を継いで7代目。ここに田んぼや畑を残してくれたご先祖様に感謝しています。今は米と30種類ほどの野菜を、無農薬、無化学肥料で作っています。

同じように塩谷町で有機農業をしている仲間たちと有機農産物の定期便をやっています。自然の循環に沿った環境や人にやさしい栽培方法で、心を込めて育てた野菜。箱の中には、畑の様子や野菜の食べ方などを書いた手紙を添え、会員の方たちの理解とつながりを大切にしています。

農業体験を通して子どもたちと交流、農家民宿もスタート

20年くらい前から農業体験の子どもたちを受け入れています。町には閉校になった熊ノ木小学校を再利用した宿泊施設「星ふる学校くまの木」があり、そこに毎年横浜の小学生が泊り、農業体験にやってきます。彼らはニワトリを抱っこするのが大好きで、「卵を探してごらん」というと「卵が温かい！」と大騒ぎ。こういった子どもとのやり取りが楽しくてしょうがない。

「ふれあいの里しおや」の中にある農村レストラン「尚仁」で、15年間代表を務めていましたが、今年5月で定年を迎え自由な時間ができました。そこで農業体験から一歩踏み込んだ農家民宿を始めることに。

町で最初の農家民宿だったので、まったくの手探り。加工や宿泊スペースの図面を持って保健所や役場に何度も足を運んで許可をもらいました。定員は10名。

DIYの得意な夫、料理が得意な自分、栄養士の資格をもつ娘など、家族みんなが協力して準備しました。あるものを利用し、お金をかけず、楽しみながらが、モットー。庭にはサウナテントも登場します。

普段は地域の方たちが気軽に集まれる交流の場になっています。

地域の視点で農業を考える

自分は、2003年に栃木県女性農業士として認定を受け、以来20年間、女性の社会参画に身をもって取り組んできました。

2014年にJA理事の地区推薦の話が来た時は不安もありましたが、引き受けることにしました。JAしおのやでは初の女性理事となりました。

1期目はなかなか分からないことも多く、自分の意見がなかなか言えませんでしたが、地域の視点で農業を考え、周りの方にいろいろ教えていただいたこともあり、3期目となって自分の意見が言えるようになりました。JA理事になってみて、農協は農業だけでなく、地域の生活のためにあるものだと感じています。

また、町内初の女性農業委員として2期をつとめました。しかし、封建的な農村の風習や女性の発言に対する「生意気なことを言って」などと女性の発言を封じるような考え方には、まだまだ改善すべき余地があると感じています。

これからも、地域を担う次代の後継者や女性農業者の活躍を積極的に後押ししていきたいと思っています。

農業体験の子どもたちに大人気のニワトリ

▲豊かな景色の広がる塩谷の風景の中で

▲こだわりの有機農法で育てた野菜

▲地域の農業振興に地域初の女性JA理事として関わる

▲栄養士の娘さんが作る料理は絶品

▲家族みんなで作り上げた宿泊事業

とちぎびぃなすLaboの取り組み

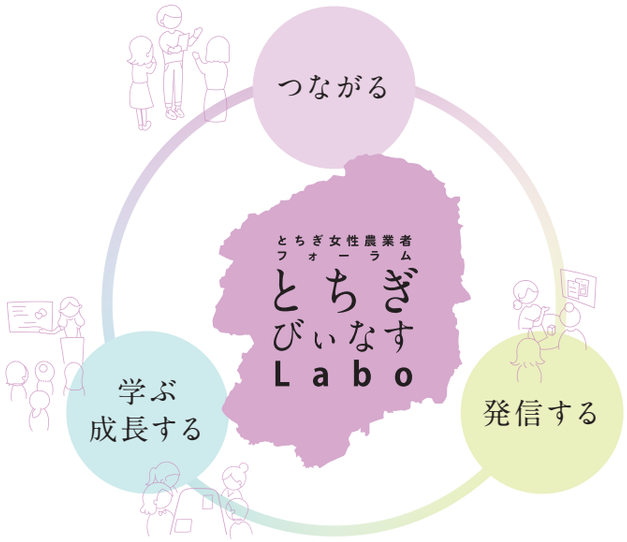
職業として、農業を選択する女性を増やしたい。
そんな想いを持って、果敢にチャレンジする女性農業者の交流の場として、「とちぎびぃなす Labo」をつくりました。

「とちぎびぃなす Labo」では、会員間のネットワークづくりや地域農業の課題解決に向けたグループ活動支援、異業種との連携など、女性農業者が主役となる農業経営や地域農業の活性化に向けた活動を応援します。

また、生き生きと活躍している女性農業者の姿を広く発信し、農業で地域を盛り上げていきます。

志を共にする仲間の輪を広げ、農業の面白さややりがいを発見し、叶えたい夢をかたちにするため、「とちぎびぃなす Labo」に参加してみませんか。

✦とちぎびぃなすLaboとは



会員募集 | 各種セミナーや支援情報をお届けします！

つながる

フォーラム・交流会の開催
フォーラム・交流会を開催し、県内の女性農業者や関連する事業者の皆様のつながりを創出します。

学ぶ・成長する

支援プログラム、研修機会の提供
グループ活動などの支援プログラムを提供しています。また、経営者養成研修も行っています。

発信する

ホームページや SNS、イベントでの情報発信
ホームページや SNS、各種イベント等で、会員の皆様の活動を広く伝えていきます。

女性活躍の事例や支援制度を知りたい

✦ **とちぎびぃなすLabo公式サイト「She's Flowers」**
相談窓口：栃木県農業者懇談会、栃木県農政部経営技術課、各農業振興事務所

農業の新たなチャレンジを支援します！

農業を新たに始めたい

✦ **とちぎ就農支援サイト「tochino-トチノ-」**
相談窓口：とちぎ農業経営・就農支援センター（栃木県農業振興公社内）
栃木県農政部経営技術課、各農業振興事務所

６次産業化を始めたい

✦ **とちぎ農山漁村発イノベーションサポートセンター**
相談窓口：とちぎ農山漁村発イノベーションサポートセンター（栃木県農業振興公社内）
栃木県農政部農政課

農福連携に取り組みたい

✦ **とちぎセルプセンター**
相談窓口：とちぎセルプセンター、栃木県農政部農政課

グリーン・ツーリズム（農業体験受入や農家民宿等）を知りたい

✦ **とちぎのグリーンを楽しむ！（実践者の紹介）**
相談窓口：栃木県滞在型グリーン・ツーリズム相談窓口（栃木県農政部農村振興課）

相談窓口一覧

✦**栃木県農業者懇談会**
宇都宮市一の沢2-2-13（とちぎアグリプラザ内）
TEL 028-647-2622

✦**とちぎ農業経営・就農支援センター**
宇都宮市一の沢2-2-13（とちぎアグリプラザ内）
TEL 028-648-9511

✦**とちぎ農山漁村発イノベーションサポートセンター**
宇都宮市一の沢2-2-13（とちぎアグリプラザ内）
TEL 028-648-9511

✦**とちぎセルプセンター**
宇都宮市若草1-10-6（とちぎ福祉プラザ内）
TEL 028-622-0433

✦**栃木県農政部 農政課**
宇都宮市塙田1-1-20
TEL 028-623-2288

✦**栃木県農政部 農村振興課**
宇都宮市塙田1-1-20
TEL 028-623-2333

✦**栃木県農政部 経営技術課**
宇都宮市塙田1-1-20
TEL 028-623-2317

✦**河内農業振興事務所（経営普及部）**
宇都宮市竹林町1030-2（河内庁舎）
TEL 028-626-3072

✦**上都賀農業振興事務所（経営普及部）**
鹿沼市今宮町1664-1（上都賀庁舎）
TEL 0289-62-6125

✦**芳賀農業振興事務所（経営普及部）**
真岡市荒町116-1（芳賀庁舎）
TEL 0285-82-3074

✦**下都賀農業振興事務所（経営普及部）**
栃木市神田町5-20（下都賀庁舎第2別館）
TEL 0282-24-1101

✦**塩谷南那須農業振興事務所（経営普及部）**
矢板市鹿島町20-22（塩谷庁舎）
TEL 0287-43-2318

✦**那須農業振興事務所（経営普及部）**
大田原市本町2-2828-4（那須庁舎）
TEL 0287-22-2826

✦**安足農業振興事務所（経営普及部）**
佐野市堀米町607（安蘇庁舎）
TEL 0283-23-1431